

2025年度「台湾日本語教育研究」国際シンポジウム
日本語教育：変えるべきこと・守るべきこと
プログラム

会場 淡江大学淡水キャンパス・驚声ビル3階（新北市淡水区英専路151号）
時間 2025年11月29日（土曜日）9:00～17:00

- * 各部の時間配分
基調講演：1人につき40分間
招待講演：1人につき30分間
論文発表：1人につき25分間（発表時間20分＋質疑応答5分）

0830-0900	受付(驚声国際会議場前)			
0900-0920	開会式	会場 驚声国際会議場 開会挨拶 曾 秋柱 (台湾日語教育学会理事長) 許 輝煌 (淡江大学学術副学長) 林 怡弟 (淡江大学外国語学部学部長) 荒木 直哉 (公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所広報文化部長) 司 会 樋口 達郎 (台湾日語教育学会副事務局長)		
0920-0930	休憩時間			
0930-1010	基調講演1	会場 驚声国際会議場 司 会 賴 振南 (輔仁大学教授) テーマ 理解可能なインプットとは何か ―日本語学習者による新たな言語の経験の実態から― 講演者 西口 光一 (日本日本語教育学会会長)		
1010-1020	休憩時間			
1020-1100	基調講演2	会場 驚声国際会議場 司 会 賴 錦雀 (東呉大学特聘教授) テーマ 人間とAIの補完性から描く日本語教育の再設計 ―変えるべきこと・守るべきこと― 講演者 長谷部 陽一郎 (同志社大学教授)		
1100-1110	休憩時間			
1110-1140	招待講演1	会場 驚声国際会議場 司 会 羅 清立 (東呉大学特聘教授兼学部長) テーマ 「日本語教育の過去・現在・未来」 ―台湾から学ぶこと、日本から伝えること― 講演者 山内 信幸 (日本比較文化学会副会長)		
1140-1210	招待講演2	会場 驚声国際会議場 司 会 林 慧君 (台湾大学教授) テーマ 「多文化」で多様化する日本語教育 ―学生と地域を結ぶ試み― 講演者 辛 銀真 (韓国日語教育学会副会長)		
1210-1310	1. 会員大会 (驚声国際会議場) 2. 昼食時間 (T310、T311教室)			
1310-1315	セッション1 招待発表	会場 驚声国際会議場 司 会 黄 英哲 (台中科技大学教授)	セッション2	会場 T310教室 座長 葉 淑華 (中国文化大学教授兼学部長)
1315-1340	奥村 訓代 (日本比較文化学会顧問・理事) 古くて新しい日本語教育 ―温故知新とAIW― 飯干 和也 (韓国日語教育学会常任理事)		馮 寶珠 (輔仁大学教授) 日本語ゲームベース学習の設計・開発・応用に関する 実践的研究 市原 乃奈 (拓殖大学准教授)	
1340-1405	内容言語統合型学習 (DLIL) の教授・学習モデル開発研究 ―大学の日本語学習者を対象とした市民教育を目指して―		日本語学習者・訪日外国人旅行者が求める 日本語学習内容の要素について ―インバウンドと日本語教員の新たな関係性―	
1405-1430	公文 素子 (日本比較文化学会中国・四国支部会計) 多様化する日本語学習者に対応した日本語の環境づくり ―共生・共存社会から考える―		城戸 秀則 (東呉大学非常勤助教授) 「Vことにする」と「Vことになる」の共通点と相違点	
1430-1440	休憩時間			
1440-1445	セッション4	会場 驚声国際会議場 座長 范 淑文 (台湾大学非常勤教授) 曾 秋柱 (淡江大学教授)	セッション5	会場 T310教室 座長 劉 怡伶 (東呉大学特聘教授兼学科主任) 羅 曉勳 (台中科技大学教授)
1445-1510	AI時代下のクリエイティブな日本文学授業への挑戦 ―AIと協働して村上春樹風動画制作の完成を目指して― 簡 曉花 (中華大学教授) 張 敘智 (中華大学助教授)		SDGsは誰の現在と未来か？ 学習者の視点から考える持続可能な教育の在り方 泉 史生 (兼任民間日本語教師養成講座講師)	
1510-1535	生成AIを活用した「日本社会と流行文化」授業のPBL教育		近代日本語教育史から見た今後	
1535-1545	休憩時間			
1545-1550	セッション7	会場 驚声国際会議場 座長 羅 曉勳 (台中科技大学教授兼学科主任)	セッション8	会場 T310教室 座長 楊 錦昌 (輔仁大学教授)
1550-1615	佐古 恵里香 (流通科学大学特任講師) 山内 信幸 (同志社大学教授) 視線位置と言語化プロセスから見る日本語の 自他・授受表現習得に関する1考察 ―日本語母語話者と中国人・ベトナム人学習者の比較分析― 堀越 和男 (淡江大学准教授)		堀野 善康 (京都外国語大学博士後期課程) 台湾華語母語日本語学習者は雑談AIを どのような存在と捉えているか？ ―人間とAIの雑談の違いに着目して― 甘利 実乃 (東京外国語大学博士後期課程)	
1615-1640	協賛言語教育 (SyLE) の理論的枠組みの提案 ―AI共生時代における「学びの線」を可視化する機械モデル―		日本近代文学のレベル別多読教材化における生成AI活用と文体保持 ―作家固有の文学性を活かす自動変換手法―	
1640-1650	休憩時間			
1650-1700	閉会式	会場 驚声国際会議場 閉会挨拶 曾 秋柱 (台湾日語教育学会理事長) 邱 若山 (台湾日語教育学会理事) 司 会 樋口 達郎 (台湾日語教育学会副事務局長)		
1800-1930	懇親会	会場 海宴 新台菜會館 (251新北市淡水區新市一路三段33號, 02-2626-7933)		

主 催 台湾日語教育学会・淡江大学村上春樹研究センター
助 成 独立行政法人国際交流基金・國家科學及技術委員會
後 援 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所・日本比較文化学会・韓国日語教育学会・台湾日本語学会・淡江大学人工知能学科

